

科目名	舞踊学原論			担当者		
英文名	The Principles of Dance Study					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	1			専門・必修		
授業形態	講義	科目ナンバー	DMR102		卒業認定方針との関連	⑥⑦⑧
【到達目標】						
「舞踊・ダンス」は歴史的・地域的に多様な展開を示す営みであるため、全体像を捉えるためにはこれらを系統的に理解することが必要である。本講義では「舞踊・ダンス」の社会的機能、教育や芸術などにおける位置づけ、演劇や音楽などの近接領域との関係を解説する。本講義の到達目標は、解説された事項を履修者が理解し説明できると共に、ダンス学科での自らの学修、さらには今後の「舞踊・ダンス」の姿に関する展望を持つことに学んだ内容を具体的に役立てられることである。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
舞踊の歴史的展開についての基礎的事項・理論		舞踊の歴史的展開に関する理論を理解し、自らまとめて説明できる。		舞踊の歴史的展開について、授業資料を参照しながら説明できる。		舞踊の歴史的展開について理解が不十分で、資料を参照しても説明ができない。
舞踊の社会的機能や隣接領域との関係についての基礎的事項・理論		舞踊の持つ社会的機能や隣接領域との関係に関する理論を理解し、自らまとめて説明できる。		舞踊の持つ社会的機能や隣接領域との関係について、授業資料を参照しながら説明できる。		舞踊の持つ社会的機能や隣接領域との関係について、理解が不十分で、資料を参照しても説明ができない。
知見と自己の専門的学修との関連づけ		舞踊学の理論を自らの学修と関連づけて考え、卒業までの学修計画を展望することができる。		学科のカリキュラムを理解しており、資料を見ながら説明できる。		学科のカリキュラムについての理解が不十分で、資料を参照しても説明ができない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 日常における運動表現と舞踊 【 到達目標 】 日常にみられる表出や、再現、表現運動と舞踊のつながり、差異を理解する。 【授業時間外学習】 ダンスの定義を考え、短文で記してみる。(4.0hr)				第9回 近代舞踊革命とモダンダンス 【 到達目標 】 19世紀末にバレエを否定して起こった新しい舞踊の考え方や作品、その影響を理解する。 イサドラ・ダンカン、ロイ・フラー、ルース・セント・デニスなどの活動を知る。 【授業時間外学習】 19世紀末から20世紀初めに起こった新しいダンスやダンス教育の形を動画で確認し、バレエや伝統舞踊との違いを考える。(4.0hr)		
第2回 舞踊の分類（1）運動の特徴を中心に 【 到達目標 】 舞踊の起源をたどりながら、舞踊の基本的運動の特徴を整理して具体例とともに理解する。 【授業時間外学習】 導入動画を視聴した上で、世界の多様な民族・地域で古来より伝承されている舞踊について、その由来と特徴を調べる。(4.0hr)				第10回 ドイツ表現主義舞踊 【 到達目標 】 ドイツを中心とする表現主義舞踊の展開を理解する。 ルドルフ・ラバン、ダルクローズ、デルサルト、マリー・ウィグマン、グレート・バルッカらの活動とその影響を知る。 【授業時間外学習】 ダンス学科の教育と関わりのある二つの文章を読んで感想を書く。(4.0hr)		
第3回 舞踊の分類（2）社会的機能を中心に 【 到達目標 】 多様に展開する舞踊を、社会的機能から、祭儀性の舞踊、遊戯性の舞踊、審美性の舞踊などに分類し、具体例とともに特徴を理解する。 【授業時間外学習】 舞踊と信仰や交流との関わり、また政治との関わりを動画で確認する。(4.0hr)				第11回 アメリカにおけるモダンダンスの確立と展開 【 到達目標 】 アメリカにおけるモダンダンスの確立と展開を理解する。 グラハム、ホートン、リモンなどの提起した表現技術の考え方を理解する。 【授業時間外学習】 1920～1960年代を中心としたアメリカにおけるダンスの特徴を動画で確認し、履修者各自の専門性との関わりについて考える。(4.0hr)		
第4回 日本の中世文化と舞踊 【 到達目標 】 中世に庶民の間で踊られていた舞踊の特徴と、社会状況との関連を理解する。 村民と流浪民の存在、芸能集団の始まりなどについて理解する。 【授業時間外学習】 日本で生まれた芸能と大陸から入ってきた芸能の例を動画で確認する。(4.0hr)				第12回 人間や社会の理解の変化とポスト・モダンダンスの出現 【 到達目標 】 1960年代からアメリカで起こったダンスの主張とその波及状況を理解する。 【授業時間外学習】 1960年代からのアメリカを中心としたダンスの特徴を動画で確認し、ダンスに対する考え方の変化を捉える。(4.0hr)		
第5回 ヨーロッパ中世文化と舞踊～バレエの誕生～ 【 到達目標 】 バレエが発祥し、フランスを中心に支配層の保護のもとに次第に発展していく過程を理解する。 【授業時間外学習】 中世ヨーロッパでのダンス事情を動画で確認し、日本との共通点について考える。(4.0hr)				第13回 日本のポスト・モダンダンス「暗黒舞踏」 【 到達目標 】 社会に対して思想を発信する仕掛けとしてのダンスの可能性を知る。 舞踊における自文化・異文化の交流とグローバル化について理解する。 【授業時間外学習】 暗黒舞踏の例を示した動画を視聴し、その特徴を捉える。(4.0hr)		
第6回 日本の伝統芸能の成熟 【 到達目標 】 外来文化と在来芸能が融合して伝統芸能としての位置づけを確立してゆく経緯と、その代表といえる「猿楽」「歌舞伎」の特徴を理解する。 【授業時間外学習】 日本の寺院で継承されている秘儀や能・歌舞伎の表現の例を動画で確認し、その特徴について考えておく。(4.0hr)				第14回 「いまここ」を生きる人のコンテンポラリーダンス 【 到達目標 】 ボーダレスとなってきた舞踊と周辺領域の関係を見ながら、現代社会における舞踊の価値について理解する。 【授業時間外学習】 コンテンポラリーダンスの扉を開いたとされる人々の功績を中心として、現代の多様な表現世界を動画で確認し、「未来のダンス」と題して800字程度の小論文を作成する。(4.0hr)		
第7回 バレエの革新 【 到達目標 】 ロシアでのクラシックバレエの確立と、バレエ内部から起こった革新を理解する。 【授業時間外学習】 クラシック・バレエのレッスン風景や作品のダイジェストを動画で視聴し、その特徴について考えておく。(4.0hr)				第15回 Dance for All 【 到達目標 】 「理解度確認」の中で、歴史的観点並びに行動タイプの観点から、人間・社会とダンス・舞踊の関わりについて理解し、適切な説明ができる。 【授業時間外学習】 15回の学習を経て形成された各自の「ダンスの定義」を記述する。(4.0hr)		
第8回 日本における西洋舞踊の受容 【 到達目標 】 明治維新とともに欧米文化を導入しようとした日本の状況と、そこでの舞踊の受け止められ方や実践状況を理解する。 【授業時間外学習】 日本の「お稽古場」文化は独特だと言われる。例えばフランスやイギリス近代日本人が欧米のダンスと出会った頃のダンスの例を動画で視聴し、現況との違いについて考える。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 授業では毎回パワーポイントを用いて解説を行い、2回目以降はこれに加えて各回のテーマに即した編集動画を視聴して、具体的例証を確認しながら理解を深める。授業終了時～当日中にGoogleFormsで「学習状況確認」を実施する。指定した回には、指定された方法で授業時間外学習の成果を提出する。最終回で総合的な理解度の確認を行う。各授業回の講義ガイド、音声入りパワーポイント動画と、ための副教材動画である。最終回で総合的な復習と理解度の確認を行う。						
【教科書・参考書など】 適宜、資料を配布する。						
【成績評価方法】 レポート形式で行う回の授業時間外学習の成果(25%)と授業内の復習課題達成度(25%)、最終的に確認された理解度の状況(50%)を併せて成績評価する。						

科目名	生涯ダンス論			担当者			
英文名	Lifelong Dance						
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科	
履修年次	2		スポーツ科学科	専門基礎・選択			
授業形態	講義	科目ナンバー	DBE202		卒業認定方針との関連	⑥⑦	
【到達目標】							
本講義では、人間の心身発達の理論とダンスの性質とを結びつけて解説する。発達段階や文化・環境など、異なる条件ごとに、あるいは条件の違いを超えて、ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割を理解し、指導者やファシリテーターとして「いつでも、どこでも、だれとでも」ダンス体験を共有することができるための基本的な知識を習得する。							
【ルーブリック（学修の到達レベル）】							
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル	
人間の心身発達の理論とダンスの性質との関連について		人間の心身発達の理論とダンスの性質との関連を理解し、自らまとめて説明できる。		人間の心身発達の理論とダンスの性質との関連を、授業資料を参照しながら説明できる。		人間の心身発達の理論とダンスの性質との関連についての理解が不十分で、資料を参照しても説明ができない。	
ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割について		人が持っている条件との関わりで、ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割を理解し、自らまとめて説明できる。		ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割と、人が持っている条件との関わりを、授業資料を参照しながら説明できる。		ダンスがもたらす喜び、ダンスが果たす役割と、人が持っている条件との関わりについての理解が不十分で、資料を参照しても説明することができない。	
理論的な知識の、指導実践方法のなかでの活用について		発達段階や条件毎に必要な実践理論の知識を習得しており、具体的に適切な活用方法を述べる事ができる。		発達段階や条件毎に必要な実践理論の知識を理解し、授業資料をもとに具体的な活用方法を述べる事ができる。		発達段階や条件毎に必要な実践理論の知識を理解しておらず、資料を参照しても活用方法を述べる事ができない。	
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】							
第1回 「生涯ダンス」の理念①				第9回 老年期とダンス①			
【 到達目標 】 スポーツと芸術とダンスの特性について「あそび」の視点から説明できるようにするための基礎的な概念を理解する。				【 到達目標 】 高齢者の生活課題と、そこにダンスが果たす効果について理解する。			
【授業時間外学習】 シラバスのなかで不明な語句をリストアップし、辞典などを参照して語の意味を理解しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 ADLと認知症について調べる。(4.0hr)			
第2回 「生涯ダンス」の理念②				第10回 老年期とダンス②			
【 到達目標 】 「ライフステージ」の概念や「わたしらしさ」を特徴づける多様な要素について知り、本講義を「生涯ダンス論」とする意味について理解する。				【 到達目標 】 祖父母以上の世代がどのようなダンス観を持っているかを理解し、プログラムづくりに役立てられる。			
【授業時間外学習】 ロジェ・カイヨワ『遊びと人間』による4つの遊びの特性について、各種スポーツと関連づけて理解しておく。(4.0hr)				【授業時間外学習】 父母世代にインタビューし、1950～60年代の社会状況と当時の文化の特徴をまとめる。第8回の成果とともにレポートとして提出する。(4.0hr)			
第3回 子どもとダンス①				第11回 障害とダンス①			
【 到達目標 】 乳幼児期の運動発達と身体表現について理解する。				【 到達目標 】 「障害」の概念について理解し、様々な人々の存在とその人たちのダンスについて具体的に想像することができる。			
【授業時間外学習】 「子育て支援」の概念と、日本における問題点について調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 ICFについて調べ、その趣旨を説明できるようにする。(4.0hr)			
第4回 子どもとダンス②				第12回 障害とダンス②			
【 到達目標 】 幼児期の模倣動作、リズム運動の発達について理解し、幼児期のダンス活動指導の要点を理解する。				【 到達目標 】 個別の「障害」を障壁とせず、共にダンスすることに価値を見いだすインクルーシブなダンス活動について、実践例等から理解する。			
【授業時間外学習】 保育園・幼稚園で行われる「表現」と関わる指導について調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 リハビリテーション、ノーマライゼーションの定義を調べる。(4.0hr)			
第5回 青年期とダンス①				第13回 地域とダンス①			
【 到達目標 】 青年期を過ごす自分たちの特性が、ダンスとどのように関わっているか理解する。				【 到達目標 】 地域活性化、世代間交流、子育て支援など、地域でのダンスの実例に触れて、ダンス活動の持つ力について理解する。			
【授業時間外学習】 各種ダンスのコンクールについて調べ、その特徴と評価の尺度などについてまとめる①。(4.0hr)				【授業時間外学習】 地域で行われている世代間交流、異文化交流などのプログラムについて調べる。(4.0hr)			
第6回 青年期とダンス②				第14回 地域とダンス②			
【 到達目標 】 若者が生み出す文化やダンスと社会の影響関係について理解する。				【 到達目標 】 生活や人生が展開する場としての「地域」という考え方を理解し、人々を結びつける道具、エンパワメントの道具としてのダンスについて、適切な考えを述べる事ができる。			
【授業時間外学習】 各種ダンスのコンクールについて調べ、その特徴と評価の尺度などについてまとめる②。 ①と②をまとめ、レポートとして提出する。(4.0hr)				【授業時間外学習】 前回までの授業全体を振り返り、生涯学習の内容や道具としてダンスに特有の特徴を導き出す。(4.0hr)			
第7回 壮年期とダンス①				第15回 だれもがダンスのもつ豊かな喜びを享受することができるために			
【 到達目標 】 中高年の生活課題と、そこにダンスが果たす効果について理解する。				【 到達目標 】 「理解度確認」の中で、「生涯ダンス」の現状についてこれを振興する上で求められることについて、適切な考えを述べる事ができる。			
【授業時間外学習】 スポーツクラブなど健康産業の場面で提供されるダンス関連プログラムにはどのようなものがあるか調べる。(4.0hr)				【授業時間外学習】 ダンスと関わる進路にはどのようなものがあるか調べ、それに必要な条件を検討する。(4.0hr)			
第8回 壮年期とダンス②							
【 到達目標 】 両親の世代がどのようなダンス観を持っているかを理解し、プログラムづくりに役立てられる。							
【授業時間外学習】 父母世代にインタビューし、1980～1990年代の社会状況と当時の文化の特徴をまとめる。(4.0hr)							
【学習上の留意点】							
授業はパワーポイント・プレゼンテーションや映像資料を用いながら進行する。授業でのディスカッションの素材を得るために、授業時間外学習において図書やインターネットでの情報検索や、身近な人へのインタビューを求めることがある。毎回の授業終了時に理解度確認のための課題の提出(GoogleForms)を求める。出席は、カードリーダーでの読み込みと、各授業回の復習課題の提出によって確認する。各授業回の復習課題提出時に質問等を受け付け、次回の授業内でフィードバックを行う。指定した回には、指定された方法で授業時間外学習の成果を提出する。最終回で総合的な理解度の確認を行なう。							
【教科書・参考書など】							
必要に応じて印刷資料を配布する。							
【成績評価方法】							
毎回提出する授業内レポート(20%)、授業時間外学習報告を含むノート作成状況(20%)、最終回で行う総合的な理解度の確認状況(60%)を併せて成績評価する。							

科目名	舞踊指導演習（高齢者・障害者指導法）			担当者		
英文名	Seminar in Dance Teaching Method (Teaching Method for the Elderly and People with Disabilities)					
単位数	2	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	4		スポーツ科学科	専門・選択		
授業形態	演習	科目ナンバー	DME311		卒業認定方針との関連	⑦
【到達目標】 高齢者や障がいのある人にとって、楽しみながら、身体や動きの能力と自己認識を高め、社会性や情緒表現、コミュニケーションを促進することができる機会を提供するためのダンス活動に必要な基礎知識を解説する。また、高齢者や障がいの特性を理解する手立てや、対象者に応じたダンスプログラムの組み立て方、基礎的な指導やファシリテーション技術を習得する。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
高齢者や障がいの生活について		高齢者や障がいの生活について理解し、自らまとめ説明できる。		高齢者や障がいの生活について理解し、授業資料を参照しながら説明できる。		高齢者や障がいの生活についての理解が不十分で、資料に基づき説明できない。
多様な機会を提供するためのダンス活動の特性と活用方法について		機会を提供するためのダンス活動の特性を理解し、いくつかの主題で仲間と共にファシリテートすることができる。		機会を提供するためのダンス活動の特性を理解し、指定された主題で部分的にファシリテートすることができる。		機会を提供するためのダンス活動についての理解が不十分で、指定された主題でファシリテートすることができない。
当事者の課題に対応したダンス活動活用の実際		当事者のニーズを見つけ、これに対して適切なダンス活動の提案をすることができる。		提示された課題に対して、適切なダンス活動の提案をすることができる。		提示された課題に対して、具体的なダンス活動の例を資料の中に見つけることができない。
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 高齢者がおかれている状況とダンス 【到達目標】 高齢者の状況について知り、これに対してダンス活動が持つ可能性を説明できるようになる。 【授業時間外学習】 私の町の高齢者への優しさとバリアについて観察し、具体的な特徴を記録する。(4.0hr)				第9回 車椅子使用者とダンス① 【到達目標】 車椅子使用者の特性とニーズ、一般的な車椅子の仕組みを理解し、車椅子使用者が楽しむことができる基本的な動きを行うこと、またこうした動きを考案することができる。 【授業時間外学習】 身体障がいの原因や種別・区分を調べる。(4.0hr)		
第2回 障がい者がおかれている状況とダンス 【到達目標】 障害者の状況について知り、これに対してダンス活動が持つ可能性を説明できるようになる。 【授業時間外学習】 私の町の障がい者への優しさとバリアについて観察し、具体的な特徴を記録する。(4.0hr)				第10回 車椅子使用者とダンス② 【到達目標】 車椅子使用者に多いと考えられる肢体に障がいをもつ人を対象として、多様な表現を引き出すための指導方法の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 日本では、身体障がい者への支援がどのように整備されるべきと考えられているか調べる。(4.0hr)		
第3回 型のあるダンスと型のないダンス 【到達目標】 定型的なダンスと非定型的なダンスについて理解し、説明できるようになる。柔軟な指導の流れづくりについて学び、必要に応じて素材を組み合わせる方法を理解する。 【授業時間外学習】 第1・2回の授業時間外学習を通じて作成した記録をもとに「私の町の優しさとバリア」に関するレポートを作成する。				第11回 高齢者の健康ダンス① 【到達目標】 高齢者の特性とニーズを理解し、その特性に応じたダンス活動の内容を理解する。 【授業時間外学習】 日常生活動作ADLについて調べる。(4.0hr)		
第4回 視覚障がいをもつこととダンス① 【到達目標】 アイマスクを装着して行う簡単なワークや学内散歩を通して、視覚障がいの特性とニーズを想像し、多様な感覚世界への理解の基礎を築く。 【授業時間外学習】 視覚障がいの原因や種別・区分、独特のレクリエーション活動などについて調べる。(4.0hr)				第12回 高齢者の健康ダンス② 【到達目標】 高齢者の特性とニーズを理解し、その特性に応じたダンス活動指導方法の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 認知症の特性と支援方法の基礎について調べる。(4.0hr)		
第5回 視覚障がいをもつこととダンス② 【到達目標】 アイマスクを装着して行う型のあるダンスを通して、視覚障がいを持つ人に対する指導方法の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 視覚障がい者を対象としたダンス指導の現状を調べる。(4.0hr)				第13回 振り返りとテーマ別グループ演習の計画作り 【到達目標】 グループごとに選定した対象に応じた適切なプログラムを考案し、実施計画を立てる。 【授業時間外学習】 選定した対象の特徴を調べ、適する身体表現活動の種類について検討したことを記述する。		
第6回 視覚障がいをもつこととダンス③ 【到達目標】 アイマスクを装着して行う自由な表現を引き出すワークを通して、視覚障がいを持つ人に対する指導方法の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 視覚障がい者を対象としたダンス指導の現状を調べる。(4.0hr)				第14回 テーマ別グループ演習① 【到達目標】 模擬実践案を授業参加者を対象に実施する。実践者としての気づき、参加者としての気づきを言語化して共有し、討論、相互評価を通じて、現場実践への理解を深める。 【授業時間外学習】 プログラム案を事前に試行して、検討点を確認する。(4.0hr)		
第7回 聴覚障がいをもつこととダンス① 【到達目標】 模擬体験から聴覚障がいの特性とニーズを理解し、聴覚障がいを持つ人に対する指導方法の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 聴覚障がいの原因や種別・区分、独特のレクリエーション活動などについて調べる。(4.0hr)				第15回 テーマ別グループ演習② 【到達目標】 模擬実践案を授業参加者を対象に実施する。実践者としての気づき、参加者としての気づきを言語化して共有し、討論、相互評価を通じて、現場実践への理解を深める。 【授業時間外学習】 参加者役からのフィードバックも参考に、実施計画と成果を報告書にまとめる。(4.0hr)		
第8回 聴覚障がいをもつこととダンス② 【到達目標】 模擬体験から聴覚障がいの特性とニーズを理解し、聴覚障がいを持つ人に対する指導方法の基礎を理解する。 【授業時間外学習】 聴覚障がい者を対象としたダンス指導の現状を調べる。(4.0hr)						
【学習上の留意点】 第1回～第2回では基本的な知識を習得し、視点を獲得するためのパワーポイント動画による教材を事前に配信するので注意すること。第3回目以降では、学習イメージをより明確にするために、アイマスク・車椅子など障がい疑似体験の用具を使用する回がある。履修者同士の意見交換から課題の理解が深まることが多いので、活動を積極的に創り出してゆく姿勢で臨んでほしい。用具や教場等の都合により、内容が前後することがある。 なお、この科目は日本ダンス・セラピー協会認定「ダンスセラピー・リーダー」の資格取得を目指す学生には必修科目である。						
【教科書・参考書など】 テキスト：『体や動きで表現するために』全国身体障害者福祉センター発行 その他、必要に応じて印刷資料を配布する。						
【成績評価方法】 授業内容を理解し体験を深めることができたかという活動課題達成度（60％）と、第3回、第15回授業時間外学習レポート課題の達成度（40％）を併せて成績評価する。						

科目名	ダンスムーブメント			担当者		
英文名	Dance Movement					
単位数	1	科目区分・必修 ／選択の区別	スポーツ科学科	ダンス学科	健康スポーツ学科	子ども運動学科
履修年次	2		スポーツ科学科		専門基礎・必修	
授業形態	実技	科目ナンバー	HBR204		卒業認定方針との関連	⑥
【到達目標】						
本授業では、ダンスの要素である「踊る、観る、創る」力をバランス良く養う。リズムダンスでは音楽に乗って基礎的なステップやビートに乗った体の使い方を習得し、創作ダンスでは、即興表現、簡単な作品創りを体験し、自己の表現の可能性を広げ、仲間と協力しながら創作する楽しみを味わう。						
【ルーブリック（学修の到達レベル）】						
学修内容		理想的な到達レベル		標準的な到達レベル		未到達レベル
リズムダンス		リズムに乗って生き生きと踊ることができ、またリズムに合わせた動きを創作できる		リズムに乗って生き生きと踊ることができる		リズムに乗って踊ることが難しい
表現		テーマから派生するイメージや感覚から、動き方の質を生かして踊ること、創ることが出来る。		テーマから派生するイメージや感覚から、動き方の質を生かして踊ることが出来る。		テーマから派生するイメージや感覚から、動き方の質を生かして踊ることが困難
創作ダンス		ダンスの特性や構成法を理解し、自由な発想で作品を創作し、完成度の高い作品が発表できる		ダンスの特性や構成法を理解し、自由な発想で作品を創作することができる		ダンスの特性や構成法の理解が不足し、作品を創作することが困難
【授業内容・週ごとの到達目標・授業時間外学習】						
第1回 オリエンテーション、ウォーミングアップ 【 到達目標 】 ダンスに取り組んでいく上での必要事項を確認し、全員が積極的に主体的に授業に取り組んでいくことを確認する。 仲間と交流しながら楽しく踊る。 【授業時間外学習】 実技の復習を通してダンスムーブメントへの理解を深める。(1.0hr)				第9回 表現的なダンス① 【 到達目標 】 表現的なイメージを表す動きをつなげた「波のダンス」を体験し、リズムダンスとは異なった体の使い方、表現の仕方を学ぶ。 【授業時間外学習】 実技の復習を通してダンスムーブメントへの理解を深める。(1.0hr)		
第2回 リズムダンス① 【 到達目標 】 ウォームアップの後、基礎的なステップを数種類クロスフロアで学ぶ。 簡単なステップを組み合わせたリズムダンスを学び、音楽によって楽しく踊れるようにする。 【授業時間外学習】 実技の復習を通してダンスムーブメントへの理解を深める。(1.0hr)				第10回 表現的なダンス② 【 到達目標 】 「波のダンス」から、2人組みでデュエットを創作する。 一緒に踊るユニゾンやネガティブスペースを利用した動きの利用方法を学ぶ。 【授業時間外学習】 実技の復習を通してダンスムーブメントへの理解を深める。(1.0hr)		
第3回 リズムダンス② 【 到達目標 】 ウォームアップの後、基礎的なステップを数種類クロスフロアで学ぶ。 簡単なステップを組み合わせたリズムダンスを学び、音楽によって楽しく踊れるようにする。 【授業時間外学習】 実技の復習を通してダンスムーブメントへの理解を深める。(1.0hr)				第11回 洗濯機ダンス 【 到達目標 】 「洗濯機」をテーマに、これまで習得したリズムダンス、基礎ステップ、即興的な表現、グループ創作を組み合わせた作品を踊り、一連の動きや場面の連なりで作品が成立することを学ぶ。 【授業時間外学習】 実技の復習を通してダンスムーブメントへの理解を深める。(1.0hr)		
第4回 創作ダンス①「集まる、離れる」 【 到達目標 】 リズムダンスでのウォームアップ、ステップの復習の後、「集まる、離れる」を題材に、少人数のグループで創作を行う。選んだ題材の特徴を動きや体型の変化で表せるようにする。 【授業時間外学習】 実技の復習を通してダンスムーブメントへの理解を深める。(1.0hr)				第12回 グループ創作① 【 到達目標 】 最終試験(発表会)のための作品創り。 グループに分かれて、作品のテーマ、大まかな構成、音楽等について話し合う。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してダンスムーブメントへの理解を深める。(1.0hr)		
第5回 創作ダンス②「スポーツ」 【 到達目標 】 リズムダンスでのウォームアップ、ステップの復習の後、「スポーツ」を題材に、少人数のグループで創作を行う。選んだ題材の特徴を動きや体型の変化で表せるようにする。 特徴を大きめに表現するためのデフォルメやスローモーションについて理解する。 【授業時間外学習】 実技の復習を通してダンスムーブメントへの理解を深める。(1.0hr)				第13回 グループ創作② 【 到達目標 】 テーマに合わせて、場面ごとのダンスを創り進める。 仲間と協力し、アイデアを形にしていく。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してダンスムーブメントへの理解を深める。(1.0hr)		
第6回 創作ダンス③「オノマトペ」 【 到達目標 】 リズムダンスでのウォームアップ、ステップの復習の後、「オノマトペ」を題材に、少人数のグループで創作を行う。選んだ言葉の特徴を体の質感の変化で表現することを学ぶ。 【授業時間外学習】 実技の復習を通してダンスムーブメントへの理解を深める。(1.0hr)				第14回 グループ創作③ 【 到達目標 】 全体を一貫して踊れるようにする。集中して踊りきるための練習をする。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してダンスムーブメントへの理解を深める。(1.0hr)		
第7回 ステップテスト 【 到達目標 】 1～6回で学んできたリズムダンスの到達度を確認する。 順番や基本ステップのシステムを習得し、大きな動きで音楽やリズムに乗って楽しく踊る。 【授業時間外学習】 実技の復習を通してダンスムーブメントへの理解を深める。(1.0hr)				第16回 発表と講評 【 到達目標 】 発表と相互講評。発表会を行い、成果について意見交換をする。 【授業時間外学習】 実技の復習、文献研究、公演鑑賞を通してダンスムーブメントへの理解を深める。(1.0hr)		
第8回 音楽とダンス 【 到達目標 】 動きをびったりあわせたり、わざと崩したり、無音で動いたり、音楽とダンスの様々な関係を体験し、ダンスを豊かにする音楽の活用法を知る。 【授業時間外学習】 実技の復習を通してダンスムーブメントへの理解を深める。(1.0hr)						
【学習上の留意点】						
基礎になるステップや表現の難易度を段階的に上げていくため、復習により各自課題をクリアして毎回の授業に臨む。						
【教科書・参考書など】						
特になし。						
【成績評価方法】						
提出物10%、実技試験30%、授業における課題達成度60%で総合的に評価する。						